

4・25福知山線列車脱線事故から20年が経過した！

25春闘勝利、芸備線を存続させ公共交通を守る街宣行動

地方ローカル線は繋がっているからこそ意味がある！



青山書記長

の司会で小林委員長・青山書記長がマイク宣伝をした。

岡山地本は3月4日、国労中央総決起集会に合わせ「25春闘勝利、芸備線を存続させ公共交通を守る街宣行動」を行った。

岡山駅サンステ通路・倉敷駅前（アリオ側）にて、マイク宣伝・チラシ配布行動を行い、「退職者の会」からも参加し参加人数は15名であった。

まず岡山駅サンステ西通路にて街宣行動、チラシ配り、プラスター宣伝を行った。

岡山駅では、青山書記長



小林委員長

窓口閉鎖や駅社員の配置の取りやめ、駅の無人化にする施策を推し進めている。

その後、倉敷駅に移動をし、「JRの安全問題・ローカル線廃止反対」のマイク宣伝チラシ配布行動を展開し、倉敷駅では、小林委員長・勝田副委員長・青山書記長が、市民・通行者・JR利用者に対して、「私たちは安全・安心の公共交通をめざしている。列車減便・駅の無人化により、安全とサービスの低下している。そして、ローカル線を守る」とチラシ配布・マイク宣伝を行った。

小林委員長発言

JR西日本は「新たな鉄道経営モデル」をつくるとして、営業時間短縮による

窓口閉鎖や駅社員の配置の取りやめ、駅の無人化にする施策を推し進めている。昨年9月から10月にかけて北長瀬・大元駅のみどりの窓口が閉鎖され現在岡山県内で駅員がいて販売窓口を開けているのは、岡山駅、高島駅、倉敷駅、新倉敷駅のわずか4駅だけとなっているのが実態である。

開いている窓口は長蛇の列ができ、利便性は低下して、機械操作に慣れている人には自動券売機で複雑な切符の買い方の操作は難しくどうしても有人窓口での切符購入に並ぶため長蛇の列になってしまう。

駅の無人化、列車本数も減っている状況の中、困るのは誰でしょう？



勝田副委員長

勝田副委員長発言

岡山県と広島県を結ぶ、

困るのは交通手段が公共交通機関しか無い交通弱者と言われる人たちです。

無人駅での、乗降で困った時に、すぐに頼ることがができる駅員がいないので身体に障害のある方、高齢者などにとっては移動の自由が大きく制約されている。

駅無人化は「安心・安全とかけ離れている」ことは間違いなくと言える。

あわせて、バリアフリー新法や障害者基本法の趣旨・精神に反するものである。

ともに「駅の無人化反対」の声を届けよう。

JR西日本が進めている駅無人化、減便、運転短縮は、本来あるべき鉄道の使命である「地域の生活を支える存在」とは逆行する方向であり利益優先で公共性を放棄、安全・サービスを切り捨てることは鉄道会社として決して許されないことであると訴えた。

芸備線の一部区間である備中神代駅・備後庄原駅の今後の在り方が、中国運輸局やJR西日本、沿線自治体に参加した「再構築協議会」の場で話し合われている。

昨年10月16日、第2回目の「再構築協議会」が岡山市にて開かれ、芸備線の存廃を判断するための調査費用2,000万円が承認された。沿線自治体からは「内部補助で対応すべき」「国がどう関わるのかという方向が見えないまま結論を出すべきではない」と意見が出ています。国鉄が「分割・民営」化されJRが発足した当時の政府は「安心してください、ローカル線は無くなりません」と約束した国の責任は重大である。

JRは列車減便、運転区間短縮、ワンマン運転の拡大、みどりの窓口廃止と駅の無人化等々、利便性と安全を犠牲にしてまでも利益優先の施策を推し進めている。そして、ローカル線の切捨ても進めようとしている。線路は全国のネットワークとして繋がっているからこそ意味があり、公共交通の使命を果たしている。安心・サービスを守り安心して利用できる鉄道を守ろう。